

コラム 国立水文学研究所（ロシア）との研究協力協定及び 日露ワークショップの開催

平成25年8月5日にロシア・サクトペルブルグ市にあります国立水文学研究所（以降、SHI と表記）において、寒地土木研究所、水災害・リスクマネジメント国際センター（以降、ICHARM と表記）と SHI は、寒冷地における河川工学分野の研究交流及び協力を促進することを目的とした協定を締結しました。

本協定の締結により、①寒冷地流域の水文学に関する研究、②結氷河川のアイスジャムに関する研究、③河道の復元（river restoration）に関する研究、及び④フラッシュ・フラットに関する研究の分野において、①技術的な情報、資料、刊行物等の交換、②講師及び研究者の相互訪問、及び③共同ワークショップ、セミナーの開催など連携した取組みを行い、さらに両機関の協力活動を促進していくこととしています。

特に、本協定内容の一つに、結氷河川のアイスジャムに関する研究があります。日本側では、結氷河川の数値解析モデルを開発しており、また、ロシア側にはアイスジャムに関する豊富な観測データや知見があります。双方がこれらの情報を相互交換することで、結氷河川のアイスジャムに関する研究が両国で促進されることが期待されます。

また、協定書調印に合わせて、8月5日～6日の2日間でワークショップを開催しました。日本側からは、「アジアモンスーン地域における分布型モデル（BTOP）の適応性」、「iRIC ソフトウェアによる河床変動計算モデルの紹介」、「北海道における結氷河川のモデル」など6編を発表し、ロシア側からは、「アイスジャム発生による洪水問題」、「Mzymta（ムジムタ）川復元に向けた課題」、「リモートセンシングによる降雪データの適応性」など4編を発表し、それぞれについて意見交換を行いました。

今後、寒冷地河川流域の流出解析に関する研究交流として、SHI からは、現在検討している流出予測手法に関する技術指導の要請が ICHARM にありました。また、Mzymta（ムジムタ）川を事例とした河道安定対策及び数値シミュレーションに関する研究交流や日本の河川におけるアイスジャム洪水予測手法の適用についても議論を交わし研究交流を行う予定です。

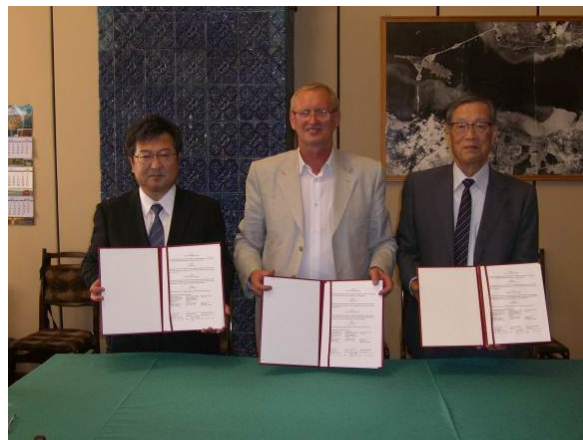


写真-1 Georgievsky 所長（中央）、柳屋所長（左）及び竹内センター長（右）による署名



写真-2 ワークショップの様子